

＜会議録＞

名 称	第4回 習志野市住生活基本計画検討委員会	
日 時	平成26年10月27日（月）13:30～15:30	
場 所	消防庁舎4階会議室	
出席者	<p>【委員】寺木委員（副委員長）、海寶委員、熊倉委員、小出委員、小湊委員、國分委員、鈴木委員、橋本委員、三代川委員、矢作委員、山田委員</p> <p>【事務局】福島都市整備部長、東條次長、遠藤住宅課長、長谷川係長、野津主任主事、山平主事補、ランドブレイン株式会社（2名）</p>	
<b>会議内容</b>		
1 開会（省略）		
2 議事		
<p><b>（1）第3回検討委員会で出された検討事項と対応</b></p> <p>事務局より第3回検討委員会で出された検討事項と対応について説明後、各委員より意見交換がなされる。</p>		
発言内容	事務局の説明	
<b>■アンケート集計資料について</b>		
<p>[委員]</p> <p>①公営住宅の建設要望が、民間賃貸住宅の居住者から多く出ているが、低所得者向けであり、住宅に困っている方が誰でも入れるということではない。アンケートで公営住宅制度の趣旨を説明しているか。</p>	<p>[事務局]</p> <p>①アンケートに記載していないので、回答者が理解して回答しているかは定かではない。</p>	
<p><b>（2）習志野市住生活基本計画（素案）</b></p> <p>事務局より素案について説明。</p>		
発言内容	事務局の説明	
<b>■自然環境の整備について</b>		
<p>[委員]</p> <p>①重点3の子育て世帯の定住と高齢化への対応とあるが、若い世帯を定住化させるためには、ハミングロード等の緑の環境を良くしたらどうか。</p>	<p>[事務局]</p> <p>①本計画では、公園の整備やハミングロードの活用は対象となりにくく、都市計画等で実施している。重点3の子育て世帯の定住は、極端な少子高齢化にならないように若い子育て世帯に魅力ある都市づくりが必要と記載している。現在、若い子育て世帯に対して親元近居を促進する支援策を検討している。若い子育て世帯が本市を選ぶよう魅力づくりをすることが必要と考え、重点施策に記載している。</p>	

<b>■震災の液状化からのインフラ復旧について</b>	
[委員] ②住環境の問題で、東日本大震災での液状化のインフラ整備が、現在どのような進捗状況で最終的にどのような住環境の整備を行っているか聞きたい。	[事務局] ②本計画では、液状化に関連して、建物の耐震性の確保を計画の重点施策1に記載している。液状化の対応については、現在策定中の都市計画マスタープランに記載している。インフラ復旧については、下水道の復旧を優先して進め、今年7月で完了した。現在は道路の本格復旧に着手し、平成28年度まで整備される予定である。
<b>■自主防災組織について</b>	
[委員] ③成果指標にて自主防災組織とあるが、震災後は活発だったが、現在は活動が行われていない場合や、高齢化の問題等がある。市民が動きやすく、活性化できる組織づくりをしてほしい。	[事務局] ③自主防災組織は、あくまで自主的な活動であるが、自主防災組織を数値目標として上げ、周知の意味でも載せている。
<b>■木造住宅耐震診断・耐震改修費助成について</b>	
[委員] ④耐震関連の木造住宅耐震診断・耐震改修費助成について、どれくらいの利用があるのか。高齢者がどの程度理解して利用しているのかわからない。どの程度の利用があるのか。	[事務局] ④木造住宅耐震診断・耐震改修費助成について、耐震診断の上限は10万円、耐震改修については設計管理料も含め上限は60万円で行っている。 昨年度の木造住宅耐震診断・耐震改修費助成実績について報告する。木造住宅耐震診断助成は18件、木造住宅耐震改修費助成は12件となっている。
<b>■総合目標の目標値について</b>	
[委員] ⑤総合目標の目標値において「市民の住宅についての満足度」が66.9%から10年後までに70%、「市民の住環境についての満足度」が74.1%から10年後までに80%と約5%しか上がっていない。目標値だから志を高く計画に取り組んでほしい。	[事務局] ⑤耐震化率など物理的な数値と、満足度の上昇は必ずしも連動しない。千葉県の数値を基にして設定している。志を高くというご指摘をいただいたので、目標値の見直しを行っていきたいと思う。
<b>3 その他</b> 事務局より次回日程の案内。	
<b>4 閉会（省略）</b>	
以上	